

2023 年度の気象に関する普及活動実施報告

江越 航*

概要

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類になったことから、気象イベントについても、ほぼ感染拡大前の形に戻して実施することができた。イベントは気象に関連する専門的な団体の協力により行ったもので、当館だけではできない有益な普及活動を実施することができた。また、年度後半は展示改装に伴う閉館のため、館内でのイベントは実施できなかったが、気象に関する講演などを行った。本稿では 2023 年度に実施した気象に関する普及活動の概要について報告する。

1. はじめに

気象は毎日の生活において関わりが深く、自然現象の中でも最もなじみがある事項である。小中学校の理科、高校の地学においても主要な一分野を占めている。そのため当館でも、気象に関する展示コーナーを設け、常設展示を行うとともに、定期的に気象に関するイベントや講座を開催している。

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類になったことから、イベントの開催に制約がなくなった。しかし年度後半は展示改装に伴う閉館があったことから、開館している上半期に集中して実施した。内容も例年通りのものを継続的に実施しつつも、来館者の反応を見ながら、少しずつ改良を加えたものになっている。協力いただいた団体はいずれも、気象に関する業務を生業とする専門的な団体であり、気象講座などのアウトリーチ活動も多く実施している。

年度後半は館内でのイベントは実施できなかったが、代わりにオンライン、および会場にて、気象に関する講演などを行った。また科学館の展示場においても、引き続き気象に関する常設展示を行うとともに、展示改装においても、気象に関するコーナーは継続することとした。

以下に、2023 年度に実施した気象に関する普及活動の概要について報告する。

2. 夏休みミニ気象台 2023

大阪管区気象台と共催で、恒例の「夏休みミニ気象台」を開催した。1997 年より毎年実施しているイベントである。

夏休み時期に実施しており、2023 年度は 8 月 2 日(水) 11:00~16:30 および 3 日(木) 9:30~15:00 に開催した。例年は研修室を主会場として開催しているが、今回は研修室の空調が故障したため、1 階の多目的室に変更し、サブ会場として工作室も使用した。1 日目 440 名(多目的室 342 名・工作室 98 名)、2 日目 464 名(多目的室 337 名・工作室 127 名)の計 904 名と、多くの方が見学に来られた。

イベントでは研修室に気象に関するさまざまな展示物やミニ実験コーナーを設置して、各日とも気象台の職員の方が 20 名程度来られて解説していただいた。

内容は、例年の内容を踏襲して、気象台の各課で分担して

- ・ 気象に関する実験
雨粒の実験、気圧の実験、雲を作る実験、ペットボトル竜巻、お天気調べ
- ・ 気象測器
風を測ろう、雨量計
- ・ 地震
液状化、長周期地震動、津波と波浪
- ・ 地球環境
二酸化炭素実験、紫外線ストラップ

という展示を設置・解説いただいた。長周期地震動については、新しい展示装置での実験が行われた。

また、工作室では「大雨、雷、竜巻から身を守ろう」

*大阪市立科学館 学芸員
e-mail:egoshi@sci-museum.jp

「観測の講座」という2種類の講座と、「風向風速計工作」を交互に実施した。各講座・工作とも1回30分で、昼休みを除いてほぼ1日を通して実施し、実施回数は各講座ともそれぞれ2日間で計4回、工作教室は計10回である。

教室の内容は、急な大雨によって生じる災害や、雨を降らせる雲についての知識、災害に備える方法を説明するもので、气象台での観測や業務について解説された。また、工作教室は風向風速計を作り、風を測定する原理を理解するものであった。

3. 楽しいお天気講座

2011年度より日本気象予報士会関西支部と共催で、「楽しいお天気講座」を開催している。

2023年度、当館で実施したのは、以下の5講座である。11月6日以降は展示改装に伴う全館休館で講座を実施できないことから、冬の講座を前倒して開催した。

なお、5月8日以降は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けは5類になったが、事前に既に前年度を踏襲した計画を立てていたため、2023年度は引き続き小学3年生～中学3年生と保護者の2名ペアでの申し込みとし、定員は9組(18名)で実施した。実施にあたって材料費、講師旅費等として、参加者1組につき500円(ただし「雪の結晶を作ろう」はドライアイスが必要となることから800円)を徴収した。

「天気予報にチャレンジしよう」5月13日(土)

テレビなどで放映される天気予報が、どのようにして作られているのか、気象観測の方法、天気変化のしくみを学び、明日の天気を予想することを行う。お天気講座の基本として、毎年実施しているテーマである。

「いろんな雲を観察しよう」7月1日(土)

夏休みの自由研究のテーマにも可能な、雲について学び、観察するという内容である。途中の工作では、雲のパネルを作成し、実際に外での観察も実施した。当日は高積雲と積雲の2種類の雲が観察できた。

「台風の不思議」9月2日(土)

台風のしくみや災害について学び、台風の発生の要因となる気圧について実験するというものである。こちらも毎年実施しているテーマである。

「空気の不思議な実験」9月30日(土)

気圧に関する実験を中心とした講座で、テーブルごと様々な気圧に関する実験を交代で行い、空気の性質を学んだ。

「雪の結晶を作ろう」11月4日(土)

雪が降る仕組みを解説し、「平松式ペットボトル人工雪発生装置」により、ペットボトルに雪結晶をつくる実験を行う講座で、毎年人気がある実験である。

4. その他

4-1. 月刊「うちゅう」

今年度の月刊「うちゅう」では、10月号のメイン記事として、気象庁 高層气象台の職員の方による、高層気象観測に関する記事を掲載した。高層気象観測の方法やその意義など、実際に観測に携わっている方の視点で解説いただいた。

4-2. オンライン講演

大阪市博物館機構トークイベント「OSAKA MUSEUMS 学芸員 TALK&THINK」の1講座として、2024年2月20日に「天気予報と機械学習」と題した配信を行った。内容は筆者が交付を受けている科研費の研究内容[1]に関連して、天気予報と機械学習の関係の、基本的な内容を述べたものである。配信内容は、現在でもYouTubeのOsakaMuseumsチャンネルにて公開されている[2]。

4-3. 講演会

大阪市博物館機構と大阪公立大学などが主催する「ミュージアム連続講座2023」の1講座として、2024年3月14日に「大阪の気候と風土」と題した講演を行った。講演内容は、気候から見た大阪の特徴と、それがもたらす風土への影響を紹介したものである。

4-4. 気象に関する展示

2018年度の展示改装に合わせ、新たに気象の展示コーナーを整備して運用しているが、2023年度の展示改装においても、引き続き気象に特化したコーナーを設けることとした。この内容については、本研究報告誌の展示改装報告の項目にて紹介している[3]。

5. おわりに

2023年度の気象イベントは、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類になったことから、ほぼ感染拡大前の形に戻して実施することができた。その他、常設展示や休館中の講演などでも普及活動を行った。特に外部の気象に関連する団体の協力により行った講座は、内容も正確性が担保され、専門的、実践的なものになっている。

気象は日常生活にもかかわりが深く、気象現象の理解の重要性は変わらない。今後も引き続き、可能な方法で普及活動を図っていきたいと考えている。

参考文献

- [1]江越 航, 大阪市立科学館研究報告, 33, p1-4 (2023)
 [2]YouTube OsakaMuseums チャンネル
<https://www.youtube.com/@osakamuseums>
 [3]石坂千春、江越航、大倉宏、嘉数次人, 大阪市立科学館研究報告, 34, p89-100 (2024)